# 令和４年度第１回御前崎市総合教育会議

日　時　令和４年９月27日（火）
午前９時00分～10時10分
会　場　御前崎市役所　３階　303会議室

１　開　　会
２　市長あいさつ
３　協　　議
（１）　令和４年度全国学力学習調査の結果等について
（２）その他
４　閉　　会

出席者名簿（敬称略）

| | |
|---|---|
| 市長 | 柳澤重夫 |
| 教育長 | 河原﨑　全 |
| 教育委員 | 竹田和世 |
| 〃 | 島田惠美 |
| 〃 | 松林義樹 |
| 〃 | 野口智美 |
| 御前崎市牧之原市学校組合教育委員 | 増田克之 |
| 〃 | 松下充利 |
| 副市長 | 鴨川　朗 |
| 総務部長 | 鈴木雅美 |
| 健康福祉部長 | 齊藤芳樹 |
| 教育部長 | 長尾詔司 |
| 社会教育課長 | 鈴木和明 |
| 学校教育課長 | 鈴木秀和 |
| 教育総務課長 | 西郷成美 |
| 教育総務課課長補佐 | 栗林正和 |

欠席者名簿（敬称略）

なし

１　開　　会

○司会
　最初に互礼を交わしたいと思います。お互いに礼。お願いします。御着席ください。
　それでは、ただいまから令和４年度第１回御前崎市総合教育会議を開会いたします。最初に市長あいさつ。柳澤市長、お願いいたします。

２　市長あいさつ

○御前崎市長（柳澤重夫）
　皆さんおはようございます。秋の彼岸も過ぎまして、朝夕はめっきりと涼しくなりました。北国のほうからは紅葉の便りも聞かれるようになりまして、日ごとに秋の気配が感じられるところであります。また、今日は、令和４年度の第１回総合教育会議をお願いしましたところ、月末を控えまして大変お忙しい中を御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様には、日頃から御前崎市の教育に対しまして、格別の御理解と御指導をいただいておりますこと、この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。
　それでは早速ですが、ただいまから総合教育会議を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会
　ありがとうございました。それでは続きまして、３番の協議に入らせていただきます。司会進行は、市長にお願いいたします。それでは、市長、お願いします。

３　協　　議
　　（１）　令和４年度全国学力学習調査の結果等について

　　（２）　その他

○御前崎市長（柳澤重夫）
　それでは会議を始めさせていただきます。今回の総合教育会議は、今年度４月に実施しました全国学力学習状況調査と、標準学力調査を基に今後の御前崎市の教育につきまして教育委員の皆さんと協議を行いたいと思います。それでは調査の分析結果を事務局から御報告をお願いします。

○学校教育課長（鈴木秀和）
　おはようございます。私からは、今年度４月 19 日に行いました全国学力学習状況調査と標準学力調査の結果を基にして、当市の子どもたちの課題であります学力向上について、皆様から御意見を賜りたいなと思っております。よろしくお願いします。今年でコロナ禍になってから３年目を迎えます。全国学力学習状況調査を実施した中学３年生は、中１の時から制約のある学校生活を送っていますので、この３年間、コロナ禍で学びがどのようになっていたのかというのを測る上でも今回の学力調査の結果は１つ、この調査だけで学力を語ることはできないのですけれども、１つの物差しになるのではと思いまして、事務局で過去の結果だとか、いろんな角度から分析をさせていただきましたので御清聴をお願い致します。まず、全国学力学習状況調査の結果から御報告させていただきます。小学校６年生、全国の調査対象者人数ですが 96 万 5,308 人です。

当市の小学６年生は 273 人です。中学校につきましては、全国 89 万 1,820 人を対象に調査を行っています。当市の中学３年生は 304 人です。まず小学校６年生の結果から説明をいたします。今年度は４年に１度、理科の学力調査がありましたので、前年度との比較は理科についてはできないのですが、小学校の国語については全国平均正答率とほぼ同じくらいです。算数、理科につきましては、５ポイント程度低い結果となっています。人数の分布で見てみると、小学校の国語については、上位層の割合はさほど全国とは変わらないのですけれども、下位層、正答率の低い子どもたちの層が厚いということが言えます。正答率が高かった問題については、話し手の発言の理由を考える問題や、読みやすい様に整えて書く際に意識することを考える問題については正答率が高かったです。一方、課題が見られたのは、物語文章の様な文学的文章の全体からいろんな想像できる、話の展開を読んでいく問題や、条件に合わせて自分の考えを書く問題に課題が見られています。続いて算数の分布図ですけれども、国語と比べてちょっと違うのは、中位層がすごく厚いことがあります。国語と同じで下位層も厚くなっています。算数の正答率の高かった問題は計算問題や最小公倍数を答える問題については正答率が高くなっています。一方、正答率の低かった問題は総じて言うと、説明をする問題や、あるもの、数字を活用していろいろと考えていく問題に課題が見られています。続いて理科の分布図ですけれども、これは中位から下位の層が全国よりも上になっているので、下位層が厚いという事が言えます。理科の結果で正答率が高かったのは観察記録を選ぶ問題や、昆虫の体のつくりの理解を試す問題。この間の教育委員の皆様に北こども園に行っていただいた時に、子どもたちがバッタを捕まえて、トノサマバッタやショウリョウバッタなどを箱に分けてというのを幼稚園の時からやっているという事がこういったところにも繋がっているのかなと個人的には思っているのですけれども、自然に親しんで育っている御前崎の子どもたちの良さが結果に表れているのかなと思っています。一方、正答率の低かった問題については、メスシリンダーとか実験用具を使ったりする上での注意点の理解を試す問題、これは算数とも重なるのですが、説明をされているものを修正する内容や、結果から新たなもの、課題を導き出すといった応用的な内容について、課題が見られています。続いて冒頭で申し上げた、中学校３年生の結果になります。こちらは小学校と比べると、どの教科も、全国の平均正答率よりも高い結果となっています。静岡県の全体も、小学校はやや全国平均並みなのですが、中学になると全国平均正答率よりも高くなるというのは、これは県の傾向と当市の子どもたちの傾向は同じなのかなと思います。特に国語は１．３ポイント、理科は３．１ポイント平均正答率が全国よりも高いのですけれども、数学は６．６ポイント上回っております。これは全国のトップクラスの高い結果になっています。下のグラフは小学校６年生の時のこの集団の、全国学力調査の結果、こちらの隣は同じ集団が小学生６年の時の結果です。去年の説明の時には、やや全国平均よりも下回っていましたと報告しました。小学校の時にも低かったのですが、全国との平均正答率の差が縮まりました。と報告させていただきました。国語についてはこの集団は小学校の時にも、高かったには高かったのですけれども、算数については６ポイントも向上しております。これが、何が影響しているのかと、いろいろと考えられるのですが、平成 31 年は第一小学校が文部科学省の指定研究を受けておりまして、算数の学力向上に取り組んでいた。ちょうどその学年になりますので小学校の時に身に付けた様々な資質能力が中学で十分活用できて、この結果が出てきていると考えると当市がずっと取り組んでいるスクラムスクールというのが、すごく小中接続という点で言うと、この結果に繋がったと言えるのではと考えています。この結果は御前崎中学校と浜岡中学校の両方が混じっており、浜岡中学校だけではありません。両方を合わせた結果が、先ほど見ていただいた結果です。では、浜岡中学校と御前崎中学校で差はあるのかと言うと、差はありません。どちらも平均正答率は、各教科とも高い結果でありました。一方が高くて一方が低いという事は無く、どちらも平均正答率は全国を上回っております。国語の分布

図については御前崎中学校も浜岡中学校も下位層が少なく、中位層が厚いという結果になっています。小学校と逆になっています。国語の正答率が高かった問題は、漢字を正しく書く問題、論理の展開に注意して発言を捉らえる問題、書かれた文字のバランスの改善点を見つける問題です。正答率が低かった問題については、当市だけでなく全国的にもそうなのですが、表現技法を正しく答える問題であるとか、書かれた文字から行書の特徴を正しく答える問題、スピーチの原稿を他者の意見を基に修正する問題、引用して文章を書く問題に課題が見られました。続いて数学の分布図についてですが、これも小学校の分布図と大きく違うことが分かるのですが、この下位層のところが全国よりも少なく、中位や上位が多い。今回の調査で分かったのは基礎的な問題の正答率が高いということ。特に数式や関数についての定着が良く見られているというのが分析結果で得られています。正答率の高かった問題は連立方程式の計算問題だったり、設定された場面における文字式の意味を理解する問題であったり、空欄を埋めて図形の証明を完成させる問題。どちらかと言うと応用に関する問題も当市の中学校３年生はよくできていたと思います。一方、低かった問題は結論が成り立つための前提を押さえて、示された例以外の場合を考えて説明する問題。かなり応用的が入ってきて論理的思考が伴う問題になります。下もそうですね。筋道を立てて結論が成り立つ理由を説明する問題。かなり応用が必要な問題について課題が見られています。続いて、理科もやはり数学と同じで下位層が極端に全国の平均よりも少なく、中位が多い。御前崎中学校の方は若干、２極化が見られていますが、両方とも下位層が中位層に上がっているというのが数学の結果と同じで言えます。理科の正答率の高かった問題は、比較する為の実験で使うものを選択する問題、モデルで表わした図を化学反応式で表わす問題が高かったです。一方、正答率が低かった問題は御覧のとおり事象や観察結果を多面的に捉える問題、エネルギーに関する知識の問題、課題解決のための方法を見つける問題に課題が見られています。同じ日に、市で予算をとっていただき、小学校２年生から５年生、中学１、２年生を対象に実施しました標準学力調査の結果について御説明させていただきます。対象の教科について、理科はありませんので、国語と算数、数学が対象となっております。上の受験者数が調査対象者人数です。先ほど全国ではそれぞれの学年が 90 万から 100 万人くらいいますと言いました。その内のこれくらいというと、４分の１くらいから５分の１程度の受験者でありますので、全国学力調査と比べると信頼度は下がってしまうのですけれども、子どもたちの傾向を経年で追うために、ずっと継続して予算をとっていただいていて、学校の方も同一集団がどうなっているかを見ながら、授業改善に繋げているところです。小学校２年生から５年生の国語と算数の結果については２つの教科とも全国平均正答率よりもおよそ５ポイント低い結果となっています。学年によっても差が見られています。中学１、２年生の国語と数学については全国平均正答率よりもやや低いのですけれども、同一集団で見てみると小学校の時よりも平均正答率の差は少なくなってきているということが分かりました。この標準学力調査から分かることですが、小学校については上位層の児童の割合は全国とそんなに差が出ていないのですが、下位層の児童の割合が多い。全国学調と全く同じです。個別支援が必要な子どもというのが、児童数は減っているのですが年々増えているということを考えると、当市では学習支援員を市費で任用させていただいているのですが、学習支援員の支えはこれからますます重要になってくるのではと思い、大変ありがたい存在です。中学校についても全国学調と同じで、下位層の生徒は１年生も２年生も比較的少ないです。小学校の時よりも、平均正答率は向上しているので、園や小学校で身に付けた学びに向かう姿勢が、中学の専門的な学習で発揮されていて、うまく接続ができていると考えられます。上位層をさらに引き上げるには、今年度から導入させていただいていますが、AI ドリルだとか個別最適な学びの充実に、これから繋げていけたら良いなと感じています。今年度の中学校３年生の成績は、当市の近年の学力学習状況調査の中では、全部の教科において平均正答率が上回っていて、特に数学では高い結果

になっています。やはり、悪いと何が課題なのだろうかと考えるのですが、良い結果を導き出すための背景が隠れているのではと私たちは分析をしました。極端に質問紙調査の結果が前年度だとか過去の中学３年生の結果よりも明らかに良いというものが、きっと御前崎の子どもたちを育てていくための授業改善や学校改善のヒントになるのではと考えて、質問紙調査の結果を見てみます。まず１つ目ですが、顕著に良かったものは、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広めたりすることが、できていますか」という質問紙調査に対して、全国の中学３年生に比べると御前崎の子どもたちは７ポイント上回っています。この子たちが、６年生の時に答えたときには、73.6ポイントだったので、それに比べるとここの数値が非常に高くなっているのが分かりました。特に自信をもって「当てはまる」と答えた子どもたちの割合は 13 ポイントも上ですので、そう考えると、先生たちがそういう場を意図的に設定しているのも功を奏しているのでしょうし、それをまた学びの実感として子どもたちが持っていてくれるというのも１つの大きなポイントなのかなと。やはり、チョークとトークの授業ではなくて、子どもたちといろんな見方や考え方をぶつけ合いながら自分の考えを再構築していくような授業が、今回の中学３年生については良かったのかな。これは授業改善のポイントにもなるのかなと思います。
２つめです。今の話と似ているのですが、「自分の意見と異なる意見について考えるのは楽しいですか。」というのが昨年度もポイントが高かったのですが、８割の子どもたちが「楽しいです。」と言っているので、主体的、対話的で深い学びというものが、最初の中学１年生の時には、コロナでグループ学習がやりにくかったのですが、状況が少しずつ変わってきてマスクはしていますがグループの話し合い活動の場を上手に設定しながら、自分の意見と異なる意見と比較しながら、授業の中で自分の考えを磨いていくという活動が子どもたちの学力の向上に繋がっているのかなと考えます。３つ目です。これも顕著に増えているのですが、「先生は自分の良いところを認めてくれている。」ということに肯定的に捉えた子どもたちが 92.8%、ほとんどの子どもたちが「先生が私の良いところを認めてくれている。」と感じています。当てはまると答えた割合についても 50 ポイント、半数ですね。自信を持って答えている子どもたちも、全国よりも 11 ポイントも上回っています。この質問に関しては、小学校の時にも聞いており、その時にも、「先生が認めてくれている」と回答している割合は全国よりも上回っていたのですが、その時よりも明らかに大きく数値が伸びており、今年の３年生は、「受容してもらえている」と実感してくれていると思います。それから、早寝、早起き、朝ごはんについて、ずっと引き続き取り組んでいるのですが、その内「毎日、同じくらいの時間に寝ている」と答えた割合は、昨年は低かったのですが、今年度は上回っています。これは去年との大きな違いの１つと言えると思います。特に、10 時前に寝ている中学３年生が、全国平均と比べると 17 ポイント程多いです。養護教諭の先生たちが睡眠の質の向上について研究をしてくれていたり、スクラム御前崎の集いの中で瀧教授が、寝ている時間に海馬と言うところで記憶が定着していくという話をしてくださっていました。そういう点からみても、質の良い睡眠をとっている子どもたちが増えているというのが、今年度の子どもたちの特徴だと言えます。なので、早寝、早起き、朝ごはんについては今後も継続していく必要があるなと実感しています。それから課題になっています、メディアやゲームの長時間利用の事です。実は今年の３年生も２時間以上ゲームをするという子どもの割合は全国よりも 11 ポイントも多いのです。しかし昨年度は 18.9 ポイントも多かったのに比べると、ここが減っているので、前年度の３年生と比較した場合、学力調査の結果が良いという中には、自立した子どもたちが去年よりも多かったのではないかと分析をしています。ここまでのまとめです。今年度の中学校３年生の表れを見ると、当市の学力向上のポイントは、やはり共同的な体験や学びの充実というものが求められるし、多様な見方や考え方を認め合う心や場面が必要で、他人から承認を受けて自己肯定感を高めていくということが子どもたちの学力向上に繋がっていくのかなと。

それから今取り組んでいますメディアとの関りについては、主体性と自立した生活が重要ではないかと考えます。これが当市の子どもたちの学力向上と授業改善の大きなポイントかなと思います。その他児童生徒の表れについて質問紙調査から見ていきたいと思います。まず成果です。ICT の機器の活用の状況について、全国学調で聞いていますが、「毎日、タブレット端末を使っていますか」という質問に「使っています。」と答えた生徒の割合は、全国の割合に比べてかなり高いです。昨年度、導入した時から教育委員会では３年計画で学校の先生たちに、子どもたちに使ってもらえる環境を整えてくださいというのが去年です。今年は「学力向上に繋がる効果的な使い方はどうなのでしょう。」というのを、今、ICT 推進委員会で検証しながら授業改善の方向にも結び付けている途中です。特に当市の場合、小学校では調べ学習の中で IC タブレットを使われる場面が非常に多くて、中学になっていくと調べ学習で毎日使っている子どもたちが多くて、月に１回くらいは考えを纏める場面で使うという活用方法になっています。これができれば、自分の考えを纏めたり、他人の考えを知ったりという場面でも使えるようになっていくと良いなと、３年間で考えています。それから早寝について先ほど、中学３年生については話をさせていただきましたが、標準学力調査の質問紙調査の結果で見ると、どの学年についても 10 時前に寝る子どもの割合は、全国に比べると非常に高い。これは養護教諭の先生たちが研究して纏めている結果とほぼ同じになっております。少しずつ適した睡眠時間を意識して生活してくれている子どもたちが増えてきていると感じます。それから朝ごはんに関することです。「毎日朝ごはんをしっかり食べていますか。」という質問について、やや小学校４年生が全国よりも低いのですが、その他の学年については「しっかり食べています。」という割合が全国よりも高い結果になっています。これは全国学調、小学６年生と中学３年生です。中学３年生については５ポイント程、高い結果になっています。その他の表れについて、今度は課題となる点です。予想がつくのではとは思うのですが、やはり、睡眠時間は適度な子どもたちが増えてきているのですが、１日の中でゲームをしている、２時間以上ゲームをしていたり、スマートホンで YouTube を見たりする子どもたちの割合は、やはり小学校６年生も中学校３年生も全国よりもかなり多い。長時間利用についてはまだまだ課題があるなと感じています。これは標準学力調査の結果でも同じで、青いグラフが御前崎で、赤いグラフが全国です。「スマートホンのメールや SNS で友達とやりとりをしますか。」という質問に対して、御前崎の子どもたちは「はい。」と答えた率が非常に多いので、小学６年生と中学３年生だけの課題ではありません。以上の結果から、早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣というのは、スクラムスクール運営協議会で継続して取り組んできている成果が、かなり表れていますし、それを子どもたち自身も実感をして回答してくれていると思います。それから授業において ICT 機器に予算をとっていただいて導入していただきました。それについては学校も一生懸命活用できるようにしていますし、子どもたちも上手に使ってくれていると感じています。一方、課題についてはやはり、メディアやゲームの長時間利用が継続した課題となっており、「使ってはいけません。」という時代ではなくなってきていますので、いかに自分の生活のためにコントロールして使えるかという、主体的、自立的な関りというものが、継続してこれからも取り組んでいかなければと感じています。それから、最後になりますが、ICT 機器については、せっかく入れていただいたのですから、ぜひ学力向上に繋がる方策というものを、市の授業改善推進委員会やＩＣＴ推進委員会の中で学校の先生たちと一緒に考えながら子どもたちの学力向上に繋げていきたいと思います。以上で説明を終わらせていただきます。御意見をよろしくお願いします。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ありがとうございました。ただ今、事務局から標準学力調査等について様々な分野から説明がありましたので、委員の皆様から御意見を出していただければありが

たいと思います。どんなことでも結構ですので、忌憚のない御意見をお願いします。

○教育委員（竹田和世）　７月に小中と学校訪問をさせていただきました。働き方改革が言われている中でも、授業の事前準備を先生たちが本当に良くしてくださっていると感心することがとても多かったです。ICT 機器が上手に活用されていて、小学校のグループでの調べ学習が、市の教育目標である「主体的・対話的で深い学び」それに上手く繋がっていると思いました。ただ、１クラス、テレビに国語の教科書が写っていて、音声の読み上げ機能を流している所がありました。そこは昭和のように先生が教科書を持って先生の肉声で読みながら、実際にページが違っている子がいて、先生が「そこじゃないよ。」とその子の教科書を指し示していました。すべてをICT 機器に頼るのではなく、そういう指導も必要だと感じました。ちょうど静岡新聞で、広島大学の大学院の教授が、「読解力の育成にはデジタルよりも紙」と載っていました。低学年の場合には、操作に気をとられてしまうということがあるので、内容に集中しにくいのではとの指摘もありました。今はまだ、試験的な段階で、どこのどの場面で、どういう活用をしていくかという事を先生たちが考えてくださって、授業に生かしてくださると良いなと思いました。あと、支援学級の生徒さんの全国学調や、標準学力調査への参加はどうなっているのでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　情緒学級の子どもたちは、どちらも受けていると思います。

○教育委員（竹田和世）　はい。分かりました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　竹田委員から、先生の授業への取組、準備も含めて評価をいただきました。読解力は非常に大事ですので、高めていっていただきたいと思います。他にどうですか。

○教育委員（松林義樹）

本当に、ここ数年のコロナ禍の中での授業については、先生方も自分の思っている授業、市の考える授業を、思うようにはできなかった授業もあるのではないか。子どもたちの力をつけるためにやりたかった授業もあったのではないかと思いながら、資料を読ませてもらいました。かなり成績もよくて、先生たちも非常に頑張ってくれているなと感じました。それと、正答率の低かった問題もそれぞれ、評価等見せていただくと、同じような傾向が言えるのではないかと思いました。理科で例えますと、仮説、予想を立てて実験、観察をしたり、結果を基に結論を導き出したり、そのためにはまず、予想や仮説を立てるためには、その内容、考えを基にしていく。それで、既習事項や既存の知識、体験を基に、子どもたちは予想や仮説を立てていきます。その段階でまた周りと意見を交換し合って自分の仮説とか予想を変えたりしながら実験して、最終的には結果、結論を導き出していく。そういうことが、どの教科についても苦手としている部分があるのではないかなと思いました。29ページの、ここまでのまとめという所で４つの事を事務局で挙げてくれていますけれども、こういうものをこれからも先生たちにお願いして子どもたちにこういう力をつけていってくだされば、より、児童、生徒の力がついていくのではないかなと思い読ませていただきました。ありがとうございました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　鈴木学校教育課長、よろしいですか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　静岡大学の村山功先生に標準学力調査の分析をしていただきました。松林委員さんがおっしゃる通り、「御前崎の小学生、中学生は、基礎はできているのですが、

活用について課題となっていますね。」と言ってくださりました。昨日は、浜岡北小学校に奈須正裕教授が来てスクラムゼミを行っていただきました。例えば先生や私たちの年代が考える基礎というのは、漢字を書いたりできるとか、計算問題をたくさん解けるとかということが、今まで知識や基礎と言われてきたのだけれど、これから子どもたちが生きていく時代は、覚えたりしなくても良い時代。問題はそれを使って、どうやって会話をするか。その計算問題を使って、どういう所に生かしていくのかという、知識を使う知識がこれから大事ですよね。活用の部分が知識になっていくと捉えて授業改善を進めていく必要性を那須教授もおっしゃっていました。正に当市の課題かなと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ただいま、GIGAの事について、ありました。これは、ただ机上の体験ではなくて、様々な実体験、社会体験によって応用力が身につくと思います。ぜひ、これからも教育現場でやっていただけるとありがたいと思います。この２年余、コロナ禍にあって、こういった学力調査の結果、御前崎市の子どもたちも良い成績が出ているということは、現場の先生方が様々な工夫をしていただき、こういった結果になったと思います。特に私が感じたのは、先生と子どもたちとの対話による信頼関係が、間接的には学力を、また人間性を向上させるためにも大変重要であると感じました。その他には、どうでしょうか。はい。島田委員、どうぞ。

○教育委員（島田惠美）　私も今、市長のお話にありましたように、先生が自分の良いところを認めてくれるというのは、それが子どもたちの心の支えになったり自分の力になったりしていると感じていたのですけれども、子どもたち自身も素直に育っている子が多いのではないかとこの頃の学校訪問で感じています。素直だからこそ親の言葉や先生の言葉がすーっと入ってきて、それが学習にも繋がっているのではすごく感じました。それがこの結果にも繋がっているし、スクラムにも結果がついてきているのが嬉しいなと感じました。自分で調べるということが身についているということでしたけれども、私が子どもの頃はまだ辞書だったのですよ。ちょっと前なのですけれども、その差と言いますか、みんなで一緒にいろいろと調べたなと思いだしたのですけれども、今はＩＣＴ機器を活用してすぐに調べる。困ったこととか疑問に思ったことを調べられるということはすごく良いことだなと思います。形は変わったけれども、疑問をすぐに、今調べる学習法がＩＣＴを導入したことによって出来るっていうことは、すごく良いことだなと思いました。あと、学調の国語の正答率が低かった問題点については竹田さんもおっしゃっていましたけれども、読解力を身につけるためには、さらに読書が必要なんじゃないかなと思いました。御前崎市でもたくさん取組んでくれていて、本を読む子が増えたと思います。でも読み込むというか、さらにたくさん読める環境があると、そういうことにもつながり読解力も身についていくと思いました。数学も応用問題が少し苦手ということで、それも国語の力を伸ばすことによって応用問題を解く力も身についていくのではと感じました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ありがとうございます。コロナの中で子どもたち自身も悩みがあったと思います。そういった時に先生や保護者が声をかけてあげると、今言ったように素直になれると、そういった事もあったと思います。小学校、中学校には、コロナ禍の中で授業ができない、とそういったことは無かったかも知れませんが、高校や大学ではコロナで対面授業ができないということがありました。子どもたちも悩んで、高校や大学で対面授業ができないから辞めてしまうということもありました。小学校や中学校ではそこまではいきませんが、コロナ禍だからできた対応もあったと思います。保護者も先生方も一緒になってコロナ禍での教育に取組んで、これがかえって良い結果になったとも言えると思います。読解力の話もありましたが、昔か

ら「百篇読めば自ずから知る」という、百回読めばどんなことでも分かってしまうという言葉があったような気がしますが、本を読み込むことが大事だなと思いますので、そういった提案がありましたので、よろしくお願いいたします。その他にどうでしょうか。

○教育委員（増田克之）　読書について御前崎市でも力を入れてきたという事ですが、その辺のデータについて中３は全国よりも良いということにつて関連があるのか、無いのか、他の学年と比較したデータは取ってはいないでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　あります。が、そこの部分が結果に結びついたかと言えるかどうかについては明確には言いにくいですが、北小学校の平均正答率が全国よりもかなり高いです。なにが良いのかと見たときに、読書が好きと答えている子どもの割合が、全国よりも遥かに高いです。知的好奇心という分部に対して読書で得た知識を小学校の内にしっかり獲得しているということが、中学になってからの専門的な学習に結びついていく。そういう所に、かなり影響があるのではと思っています。なので、図書館司書を３名配置させていただいていて、それが今回の結果にも表れていると思っています。
中学校は休み時間が短いので、なかなか図書館に行く時間がないのですけれど、かなり司書さんが委員会の子どもたちと協力して、図書館に足を運んでもらえるよう中学でも工夫をして取組んでくれています。読書が、読解力、学力向上に繋がるということに関しては、言えるのではないかなと分析しています。

○教育委員（増田克之）　ぜひそういった部分を、学校にも広めていってもらえると、これには出ていないものだから。それから、24、25、26 で、中学校３年生の、全国で数値が高い質問項目が、出ているのですけれども、この質問は、標準学力調査ではやっていないのでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　似たようなものはあるのですが、全国学調は国でやっていて、標準学力調査は業者でやっているものですから質問項目が少し異なっています。

○教育委員（増田克之）　比較は難しいのでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　同じように比較することについては、対象人数も違いますし、同じ質問が無いということもありますから、比較ができないものもあり申し訳ないなと思います。

○教育委員（増田克之）　はい。ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）　その他に何かありましたら、お願いいたします。

○教育委員（野口智美）メディアの利用時間が多いという事ですが、家の息子が正に中１と中３なのですが、友達と勉強の分からないところをグループで話し合いながら、お互いに「あと１時間頑張ろう。」とか話しながら勉強するときに使っています。他にも先日は、みんなで筋トレをすると言って、みんなで繋げて取り組んだりしています。コミュニケーションツールとして使って、やる気をキープしたり向上させたりすることができるので、どういった使い方をしているのか調査をしてみると、御前崎特有の使い方が、もしかしたらあるのかな、と思いました。特に、白羽、御前崎地区は友達同士で移動することが大変なので、放課後に遊ぶというよりは、メディ

アでつながって、そこで励まし合うという、コロナ禍ということもあったのかも知れませんが、そういう環境があったのかなと思いました。また、今の中３生は、小学１年生に入学した時から本当に子どもたちは落ち着いていて、良いねとスーパー１年生みたいにずっと言われてきていて、その後もずっと環境が良いなと感じています。白羽に行っていたのですけれど、親同士の関係や、親の雰囲気もすごく良かったと思います。小学校１年生からそうやって子どもたちや親が落ち着いていること。それが学びやすい、子どもたちが安心して学べる、伸びやすい環境をつくってきて今に至るのかなと思います。学校に入って、中学校になってから何かをするというのでは無くて、幼児期から落ち着いた子どもを育てるために、先日、保育園を訪問させていただいた時に最近は愛着形成が足りていなくて、落ち着かない子どもが増えていると言われていました。小学生に入る前に、勉強に集中出来たり友達関係をしっかりつくったりしていける子どもになるように、愛着のことなど、親に対する教育がすごく必要なのだなと思いました。ICT に関しては、家の子どものそうなのですが、すぐに調べられる反面、１つ２つ調べて安易に答えを出しやすいという傾向があると思います。研究や文献についても、信用があるところと、そうでないところがあると思うので、どんな情報を得れば信頼できる、知識を得られるのかと、そういうことも段々と知って行ってほしいなと思っています。家でも言っているのですが、２、３個調べてこうだよと言っている時には、他にもこういった詳しい調べ方もあるのではないかと伝えています。あと、学力の状況ですが、例えば学習塾に通っている子も中３生だと多いと思うのですが、上位層と学習塾に通っている子どもたちが、どんな関係になっているのか。学習塾に通っている子どもたちが上位層を占めているのであれば、学校としては下位層を引き上げるということにすごく力を入れる、集中できるのではないかと思います。他にも、YouTube ですごく分かりやすく教えてくれているので、学校でよく分からなかった部分、例えば数学の解き方を有名な塾の先生のチャンネルを視聴して、理解につながることもあります。ただし、分かった後の今後の進め方として、分かった後のどうするのかという分部は先生とのコミュニケーションの上でないと伸びてはいかないとも思います。家の中１の子は勉強が好きなのですけれども、先生から、ああしてみたら、こうしてみたらと助言をいただいて、すごく伸びていると感じています。赤ちゃんも、言語を獲得するには、プラスコミュニケーションが必要で、ただ聞いているだけ、ただメディアを見ているだけだと、発達していかないのでアウトプットが、学校という環境はいっぱい人がいてできるので、ぜひそういった面でこれからも良い学校であり続けていてほしいなと思います。ありがとうございます。

〇御前崎市長（柳澤重夫）　はい。様々な御意見をいただきました。他にはどうでしょうか。

〇教育委員（松下充利）　はい。私は初めてこの会に参加させていただいて、分からないことだらけなのですが、例えば先生は自分の良いところを認めてくれるという結果が出ています。これは去年の先生に対してと考えて良いでしょうか。

〇学校教育課長（鈴木秀和）　今年、４月の時点で回答していますので、昨年度１年間のことを振り返って答えている部分が多いと思います。それと３年生のスタートの時点でどういう印象を子どもたちが持っているのかなということが回答結果に反映していると考えます。

〇教育委員（松下充利）　そんな感じで全体を見て良いのでしょうか。

〇学校教育課長（鈴木秀和）　はい。

○教育委員（松下充利）　はい。ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。皆様から様々なお話を伺いました。先生とのコミュニケーション、コミュニケーションツールとしての ICT、こういったものも情報の受け取り方、また受け取り方によっては変わってくると思いますので、正しい情報を受け取る必要があるなと感じました。また、幼児教育について話もありました。保護者として幼児期は、大変重要であると思います。先月、市長会がありまして、県の教育長が講演をやりまして、その中で、幼児教育についてジェームス・ヘックマンの話が出ました。今、皆さんがおっしゃったように、幼児教育は大変重要であると県の教育長も認識しておりまして、小中学校ももちろんそうですが１番の根本の幼児教育、これは学校の先生だけでなく、園の先生、保護者と子どもと一体になってやらなくてはできないと思います。こういった事が人間形成の根本にあると思います。そういった事をこれからも教育の場でやっていただけたらと思います。教育長、どうですか。

○教育長（河原崎全）　皆さん、ありがとうございました。３つ、４つ、先ほどの説明を聞いた後ですけれども、１点目で子どもたちが会話をしあうとか、意見を述べあうというのがありました。この結果には、出ていないのですが、皆さん感じていらっしゃると思いますが、学校が落ち着いているのですよね。一昔前の荒れた時代から、社会的に子どもたちが落ち着いて大人しくなっている。そんな雰囲気が素地にあって、子どもたちが自由に意見交換できたり、教員と子どもたちのつながりができたり、そんなところも影響が出ているのかなと感じました。２つめですけれども、先ほど来、園の指導の話が出ていますけれども、本市の園教育は、自由保育を基として、子どもたちに対して、興味関心を持つとか、自分の中からそういうことを芽生えさせていくという方針で取組んでいます。その子どもたちが小学校、中学校と上がっていくものですから、年代を追って平均点を見ていくと、全国平均よりも低くても、段々と差が上に行くに従って少なくなって行って中３で全国を上回るという形になっています。たまたまなのかも知れませんが、これが当市の１つの特徴なのかなと思います。小学校１、２年生でいきなり教科のことをガンガン教えるのではなくて、幼稚園の時に芽生えた、何だろう、なぜ、というものを少しずつ上に行くに従って知識とか知恵で、栄養や水のように疑問を育てていって、解決していく力をつけさせていると思います。スクラムの力で 10 年、12 年かけてこの子たちを１つの形に育てていく。早急に結果を求めない。そういったスタイルが当市の１つの形なのかなと思います。今年度の様な結果が、来年も再来年も続いて１つのパターンになっていったら良いなと思います。３つ目ですが、これからはスマホやパソコンが大事だ、ICT が大事だということで、私も否定はしませんが、先日ある方がおっしゃっていましたが、そういう機器を使うのはあくまでも情報の処理なのだと。誰かが仕入れてきたものを取り入れて自分でまた活用するということなのですが、その一方で情報収集も大事です。情報収集というのは自分の五感で自分の体験の中からいろんなことを知っていく。仕入れていく。それも人として成長していくのに必要なのだということをおっしゃっている方がいました。ICT は欠かせないとは思いますが、その一方で自然体験をして、自分が見たり、聞いたり、嗅いだり、肌で感じたりしたりと、そういうものも、一方では、この地域ですので大切にしていく必要があると思いました。今のところは子どもたちも良い形で進んでいると思いますので、先生たちにもこういう結果をお伝えして一層、子どもたちが伸びていけるようにお願いをしていきたいと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ありがとうございます。いつの時代も教育というのは難しいと先生

方は思っていると思いますが、教育の中で学力向上はもちろんですが、教育の目的とは社会で通用する人間をつくるということであると思いますので、教育を通じて人間性、社会に通用する人間をつくって初めて教育が成功したと思います。こういった全体的なことも含めて、人口減少も続いておりますので、これからの社会は今の子どもたちが補っていかなければなりません。この子どもたちが本当に社会を形成していけるよう、そういった人間を育てることが教育の役目だと、私は思いますので、全体的な人間形成教育をやっていかないと。ただ勉強だけ教えればいいというものではないと思いますので、学力だけに一喜一憂するのではなくバランスの取れた子どもたちを、人間を育てていくということがこれからの社会において、一番大切なことではないかと思います。と言いますのは、今、テレビ等を見ましても様々な事件が発生しております。平気で人を殺める様な以前には無かったような事件が発生しておりますので、こういった事を社会全体で変えていくために、ぜひ先生方には人間味あふれるような教育をお願いしたいなと思います。それには先生が子どもたちに信頼される先生にならなくてはならないと思います。人間味のある先生が子どもからも信頼される。頼りにされると思いますので、先生方には、今現実に起きている社会の事も教育現場で話をしながら、生徒を引き込むような教育を期待したいと考えています。私の信頼する稲盛和夫という方が先日亡くなられました。私は稲盛さんのファンで、色々な本も読みまして、簡単なことではありますが思うことが大事だと言っておりました。思わないことは実現できないという事です。子どもたちに思わせる。思わせることが大事だなと私も思います。他には、よろしいでしょうかね。

○教育委員（竹田和世）　よろしいでしょうか。テストの関連で、子どもは褒めて伸ばすという言葉がありますけれども、私は長く教育委員をさせていただいて、結果で重くなっちゃうこともあるのですけれども今日は割と嬉しい、軽い気持ちでここに座らせていただいています。結果で気持ちはこんなに浮き沈みがあるのだと体感しているのですが、こういう結果を出してくださった先生たちに、このタイミングで先生たちの努力でという事は発信してほしいと思います。それともう１つ、御前崎市子供学習生活支援事業委託事業業務というのがあって、本事業は生活保護受給世帯、又はそれに準ずる世帯の中学生及び小学生を対象に、学習支援や生活支援を実施し子どもたちの学力向上と社会性及び自立を育むことによって将来的な自立の素地を高めることを目的とするということです。福祉課だと思うのですが、令和２年から実施されていて今、私は生徒さんを２人お預かりしています。塾に行くお金に、大変苦労されている。だけど子どもには高校に行きたいとか、将来の夢がある。先ほども、下位層の子どもたちが多いという事でしたが、全体的には今回の結果が良いからと言って放っておいていい問題ではないと思います。その１つとして、こういう事業があると思います。福祉課の方に聞くと、まだ定員になっていない。毎年定員にはなっていないようです。もう少しアナウンスをして、こういう制度があるよ。使ってみたら。と、やる気のある生徒さんに学習の機会を与えていただきたいなと思います。もう１つは、先日、旧佐倉公民館を民間への譲渡や売却を進めるということでした。私の家からはすぐ近くなのですがあそこには、ぽけっとという療育施設になっています。それを知ったのは、ぽけっとができてから、何年か経ってからでした。今、インクルーシブ教育、健常な児童と障がい児とのインクルーシブ教育というものが言われていますが、健常者と子どもたち、それから家族たちと、社会的なインクルーシブ教育もすごく大事だと思います。自分の住んでいる身近な公民館が療育施設になっているのに、それも知らずにいた。それから近所の道を、ストレッチャーに乗っている子や、車椅子に乗っている子、あるいは支援員さんに手を引かれて散歩されているのです。だけれども、近所の人たちは「遠足でもないし、何だろうね。」といった感じで分かっていない。地域の公民館に療育施設ができていて、そこに通う子どもたちがいて、地域を散歩する子どもた

ちがいるということを、地域の人たちが何も知らないということはおかしいと思うのです。私が去年も紹介させていただいたのですが、今年は実際に持ってきました。これは静岡新聞の遠州暮らしマガジン、ｅｎｍａｒｕ（えんまる）という冊子で、美味しいお料理屋さんの紹介なのですが、この１ページを使って、いつもみんなで考える子育てといって、発達障害のことをいつも分かりやすく載せています。そういうことを、市の広報紙で紙面を使ってできないかなと昨年話をさせていただいて、今年は持ってきました。今、そういう子どもたちも多くなってきていて、どういった子育てをしていったら良いかと悩んでいる親御さんも多くなっていて、それを地域の人たちが知っていく。それも大事なんじゃないかなと思いますので、ぜひお願いいたします。それから先ほどの支援事業ですけれども、市の事業だと、３月で打ち切って、それから募集して７月から学習開始になります。だけど、継続して預かっている生徒さんに対しては、私は学習を３カ月も止めたくないと思うのです。私は今、個人的に３カ月はボランティアで見させてもらっています。そういったところも子どもの立場に立って、その３ヶ月は学習習慣もついてとても大切なので、今まで預かっている生徒さんに対しては継続して学習できるようにさせていただきたいと、これは福祉課ですかね。お願いしたいです。

○御前崎市長（柳澤重夫）　福祉部長、良いですか。

○福祉部長（齊藤芳樹）　健康福祉部長の齊藤です。先ほどの生活保護世帯へのお子さんの件につきまして、今、御前崎市では生活保護世帯が 100 世帯ちょっとで、人数は 120 人前後位が生活保護を受給されています。その内、お子さんが対象の世帯には、全ての世帯に、制度の説明をさせていただいていますが、アナウンスを広くしちゃうと、この子が生活保護のお宅の子どもと分かってしまう危険性があるものですから、生活保護受給世帯とそれに準ずる世帯すべてに個々にお話をしています。もちろん勉強意欲がある子どもには、お世話になっています。けれども中には、どうしても勉強が苦手という子どももいて、無理矢理にという訳にはいかないものですから。予算の上では先ほどおっしゃられたように、まだ枠はあります。ですので、進めてはいるのですけれども、もう少し工夫していきたいと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。よろしいでしょうか。

○教育委員（竹田和世）　はい。ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）　なかなか難しいですよね。プライバシーの問題もあって。中には聞かれたくないという親御さんもいて、大変デリケートな部分もあるので、慎重にやっていただきたいと思います。

○教育委員（竹田和世）　もう１つ、忘れていました。頼まれたのですが、学童保育の支援員をされている方が見えて、牧之原市のバスの中に置き去りにされた事件を受けて、自分たちもすごく怖くなった。なぜかと言うと、学童保育の欠席連絡のルールがあいまいな気がする。という事でした。学校の先生には、今日欠席します。という連絡が確実にあるのですけれど、それが学童の方には、先生からあったり、無かったり。あるときには、「○○ちゃん、今日はパパがお休みだからパパと遊ぶって言って帰ったよ。」という子どもの言葉だけの時もあったりして、件数的に多くは無いものの、こういう仕事をしていて、すごく心配になったということでした。なので、この部分のルールをはっきりさせてほしいという要望がありました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　良いですかね。学童保育の件ですが。

○福祉部長（齊藤芳樹）　特にこの夏休み、暑い中ですし夏休みって多いのですよね。普段よりも。そういう事もありまして、常にそこは気を付けて支援員さんにお願いはしています。特にこの夏は特に支援員さんにお願いをして、欠席なのか、出席なのか、コロナ発症の疑いがあって欠席なのか、支援員さんには細かくお願いをしているのですけれども、ただ、支援員さんも大勢いらっしゃいますので、しっかりと行き渡っているかの確認が、私は今、取れていませんので、また徹底するように指導していくようにします。

○教育委員（竹田和世）　はい。お願いします。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。よろしいでしょうか。皆様から様々な御発言をいただきました。この話を今後の教育現場にも生かしていただくようお願いいたします。以上でよろしいでしょうか。事務局のほうにお返しします。

４　閉　　会

○司会　各委員には、貴重な御意見、ありがとうございました。それでは以上を持ちまして、令和４年度第１回御前崎市総合教育会議を閉会とさせていただきます。最後に互礼を交わしますので御起立ください。相互に礼。ありがとうございました。